



今月号の特集「Do You 農・JA?」では城内の泉地区で新たに八色しいたけの生産を始める上村さんとそのサポートをするJA魚沼みなみ普及指導課南雲正明課長代理と広報担当(板鼻)の3名で、これからの展望や就農に向けての意気込みを対談形式でご紹介します。



生産者 泉地区 **上村 賢**さん(40)

プロフィール

平成28年12月に5棟のしいたけハウスが完成し、新規就農。しいたけの栽培技術を学ぶため、1年間の研修にも参加。就農前はトンネル工事の現場監督として日本全国を飛び回り、汗を流していました。

JA職員 営農部 普及指導課 **南雲 正明** 課長代理(49)

プロフィール

1992年に入組。資材課や園芸畜産課で主にしいたけ担当として勤務した後、平成28年4月からは、農業振興と営農支援体制の確立のため設置された普及指導課に配属。日々、これまで培った知識・経験を生かし、就農へのサポートを行っています。

板鼻：本日は新規就農をする上村さんに今後の展望や目標就農に向けての思い、意気込みを中心にお伺いしたいと思います。また、合わせて新規就農のサポートや就農後のサポートを行う南雲代理にも話をお伺いします。よろしくお願ひします。早速ですが、上村さんが八色しいたけを作ろうと思ったきっかけは何があったのでしょうか？

上村：父が農業を営んでおり、兄2人も実家に戻ってこないことが決まっていたので、私が父の後を継ごうと決めました。八色しいたけの栽培を始めようと思ったきっかけは、就農するにあたり米価が下がっている中で、米農家一本では厳しいと感じ、JAに相談したところ、しいたけの栽培が所得の確保につながる可能性があるかと教えていただきました。

板鼻：なぜJAとして、しいたけ栽培を上村さんに勧めたのでしょうか？

南雲：八色しいたけ事業協同

組合やJAとしても生産者の後継者不足が現実的な問題として出ていました。そこで、しいたけ栽培は周囲に多くのモデルハウスがあり、栽培方法はほぼ確立されていることから、安定した所得確保が見込めるので、上村さんに勧めました。

板鼻：まもなくハウスが完成するとお聞きしましたが、栽培はいつ頃からなるのでしょうか。

上村：ハウスに菌床が入ると



が12月下旬で、約2か月半で収穫ができるようになります。計5棟のハウスでしいたけを栽培しますが、1棟約1万3千の菌床を設置します。各ハウスで収穫時期が重ならないよう栽培調整を行い、年間を通じた出荷を目指しています。



12月完成予定のハウス

板鼻：いよいよ始まるんですね。何か不安に思っていることなどはありますか。

上村：平成27年の7月から蝦島の山田さんのところでした。栽培技術の研修を1年間経験しましたが、まずは自分のハウスで本当にきのこが出てくるのか。そこが一番の心配事ですね。

南雲：間違いなく出てくるので大丈夫です。ただ、その後は他の生産者と同じことをしているけど上手くいかないといった、何かしらの問題が出てきます。やはりある程度栽培方法が確立されているものの、他の生産者とはハウスの形や機械が少しずつ違っていますので、全く同じというわ

けにはいきません。とにかく時間の許す限り、自分のハウスや他の生産者のハウスに行って観察することが大切です。しいたけと会話ができるくらいハウスに入ってください(笑)

板鼻：これからJAに対してお願ひしたい事はありますか？

上村：土地にはまだ空きがあるので、収量や経営が軌道に乗ってきたら増産なども考えています。その時は色々ご相談をさせていただいて、総合

的な支援をいただきたいです。
南雲：もちろん、任せて下さい。JAとしても長期的に生産でき、安定した収入につながるような方策を上村さんに限らず、新規就農者や後継者の方に提案していきたいと考えていますし、そのため栽培サポートや経営相談など全面的に支援していきます。
板鼻：南雲代理から心強い言葉をいただけただけで、最後に今後の目標や意気込みをお聞かせください。

南雲：八色しいたけの生産は主に大和地区で行われているので、六日町地区での生産は周囲に対して非常にいい宣伝になると思います。園芸品目の栽培にも魅力があるということを地域に対して、ぜひ発信して行ってほしいです。そして、地域に限らず、南魚沼の農業を引っ張っている存在になれるよう一緒に頑張っていきたいと思います。

板鼻：上村さんから地域の起爆剤にという熱い言葉をいただきましたが、南雲代理からも今後の意気込みをお願ひします。



このハウスに1万3千の菌床を設置します